公開・非公開の別	■　公　開　□部分公開 □　非公開

令和８年度　第２回 浜松市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

１　開催日時　令和８年９月３日（木）　１５:００～１６:４５

２　開催場所　こども家庭部 大会議室（ザザシティ浜松中央館５階）

３　出席状況

（出席）　委　　員　泉谷 朋子、大塚 文俊、梅沢 智子、大石 篤郎、岡本 孝子、
小野 豊美、富永 泉、延本 寿道、神田　翔

臨時委員　飯尾　茉莉子、佐藤 悠叶

事 務 局　こ ど も 家 庭 部：野田部長
こ ど も 若 者 政 策 課：園田課長、藤井課長補佐、
鈴木管理・育成グループ長、桐生、脇坂
子 育 て 支 援 課：小山課長、鈴木家庭支援担当課長、門奈課長補佐
児 童 相 談 所：池田所長、宮崎副所長
幼 保 支 援 課：金原課長、猪俣課長補佐
幼 保 運 営 課：渡邊課長、中村課長補佐
障 害 者 政 策 課：柴田課長
障 害 者 支 援 課：木下課長
健 康 増 進 課：仲谷課長、生田母子保健担当課長
学校・地域連携課：佐藤課長
教 育 支 援 課：今明課長

（欠席）　委　　員　村山 恵子

４　傍聴人　　０人

５　内　容

≪審議≫

（１）教育・保育施設、地域型保育事業、乳児等通園支援事業の認可等について
（幼保支援課・幼保運営課）

（２）令和９年度就学前教育・保育施設整備交付金に係る整備計画について
（幼保支援課）

（３）浜松市こども計画の点検・評価について　（こども若者政策課）

≪報告≫

（１）令和７年度　浜松市児童相談所の相談統計について　（児童相談所）

（２）令和７年度　浜松市家庭児童相談室の相談統計について　（子育て支援課）

（３）５歳児健康診査事業について　（健康増進課）

（４）静岡県社会的養育推進計画の進捗状況について　（子育て支援課・児童相談所）

６　会議録作成者　こども若者政策課　管理・育成グループ　脇坂

７　記録の方法　　発言者の要点記録
録音の有無　[有]・無

８　会議録

１　開会

２　議事
≪審議≫
（１）教育・保育施設、地域型保育事業、乳児等通園支援事業の認可等について
（幼保支援課・幼保運営課）

【説明】幼保支援課（金原課長）

～質疑・応答～
なし

（２）令和９年度就学前教育・保育施設整備交付金に係る整備計画について（幼保支援課）

【説明】幼保支援課（金原課長）

～質疑・応答～
なし

（３）浜松市こども計画の点検・評価について（こども若者政策課）

【説明】こども若者政策課（園田課長）

～質疑・応答～
（岡本委員）
２ページの事業成果の２ポツ目について、人権擁護委員も学校を訪問して人権教室を行っています。浜松人権擁護委員協議会は、浜松市、磐田市、湖西市の３市で構成されており、８５名の人権擁護委員が各小中学校で人権教室を実施しています。昨年度は、小学校５０校、中学校１０校、高等学校６校、幼稚園保育園１３校の約８０校へ行き、人権教育啓発活動を行いました。今年は、高校からの希望が多く、ＳＮＳの使い方等や男女のＤＶに関する啓発の要望が増えています。また、人権啓発センターを中心に毎年１２月に人権フェスティバルを開催しております。

（こども若者政策課・園田課長）
こどもの権利について周知啓発を行っておりますので、様々なところで連携できたらと思っています。

（岡本委員）
人権教育のねらいは命です。私たちはなぜ生まれてきたのか、人権は私たちが必ず持っているものであることをこどもたちに話しながら命を守っていきたいと思います。

（延本委員）
９ページの２事業成果の３ポツ目について、私立の園も浜松市で幼児教育・保育を行っていますが、文言としては入らないのでしょうか。

（幼保支援課・金原課長）
今回はスペースの都合等で未掲載ですが、私立園も実施しているため、次回は掲載していきたいと思います。

（延本委員）
　９ページの４今後の見通しの３ポツ目も同様に、私立園についても掲載していただきたいです。

（幼保支援課・金原課長）
　こちらも同様に、次回対応させていただきたいと思います。

（延本委員）
　合わせて、１４ページの２事業成果の３ポツ目「一時預かり事業」についても、同様に私立園も掲載していただきたいです。

（幼保支援課・金原課長）
　同様に、次回対応させていただきたいと思います。

（泉谷会長）
　４今後の見通しの３ポツ目についても同様かと思います。

（幼保支援課・金原課長）
　市立・私立ともに事業を実施していますので、両方について次回掲載したいと思います。

（梅沢委員）
　１５ページのひとり親家庭への支援について、３実績の分析「ひとり親家庭で孤立している」と「感じている・どちらかといえば感じている」が１６％ですが、これに対して何か支援はあるのか考えを教えてください。「孤立を感じている」という部分に対する支援が資料から感じられないように思いますので、何か対応があるのかお尋ねしたいです。

（子育て支援課・小山課長）
　「孤立を感じている」というのは、「ひとり親家庭アンケート」における「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人はいますか」という質問に対して「いない」と答えた方を「孤立」という形で整理しています。ひとり親家庭の支援は、経済的支援、相談支援、就労支援など様々な支援が必要です。身近に相談先があることの周知が必要であり、民生委員さん等に御協力いただきながら、地域での見守に取り組んでいく必要があると思います。

（梅沢委員）
　今後の見通しとして明文化は、まだされていないということでしょうか。

（子育て支援課・小山課長）
　孤立していると感じている人の割合を減らすために、先程お話ししたことを今後明記していく必要があると思いますので参考にさせていただきます。

（梅沢委員）
　せっかくアンケートとして数字が出ていますので、数字を出したその後をぜひ実施していただきたいと思います。

（泉谷会長）
　ひとり親家庭に関するご意見でしたが、若者委員の飯尾さん何か質問はありますか。

（飯尾委員）
　１５ページの２事業成果の３ポツ目「ひとり親家庭のための生計相談として、ファイナンシャル・プランナーによる生計相談を実施した」とありますが、この事業を始めた経緯と現在の実績が１件ということで、相談件数をこれから増やしていくのか、また、増やしていくならどの程度

の予定なのかという具体的な数値があれば教えていただけますか。

（子育て支援課・小山課長）
　ひとり親からの相談は、子育てや就労、経済的な支援など様々です。今回は、相談者のうち自立のために生計の見直しが必要と判断した方を専門家につなぎました。こうした生計相談以外にも、ひとり親ふくし会では様々な相談を受けており、その相談の中で対応できるものもあれば、専門家がしっかり家庭の状況を確認しながら計画を立てる必要がある方もいるため、専門家につないでいます。令和７年度は１件でしたが、ニーズがあれば柔軟に対応していきたいです。

（梅沢委員）
　件数が少ないということですが、この１件は、ファイナンシャル・プランナーが専門に作成する今後の見通しを立てる表を作成したものが１件でして、例えば令和６年度から継続の相談も数件あり、表作成まで至らなかったものもありました。今は相談窓口を通さなくても、インターネット等を利用して相談できるところもあるため、そちらを利用している方も多いと感じます。この窓口を見つけられるスキルがある方は、そこまで大変という状況ではないのではないかと感じています。本当に支援が必要な人ほど窓口相談にいらっしゃらないと感じています。こうした中での数字であると考えていただけるといいかと思います。

（泉谷会長）
　他にいかがでしょうか。若者委員の佐藤さんいかがでしょうか。

（佐藤委員）
　１１ページの「これからも浜松に住みたい」と思う若者の割合について、８１．５％が「思う・どちらかといえば思う」と回答しており、率直に割合が高いと感じました。就職活動をしている人の中には、東京や名古屋にいても県内に戻ってくる学生が多いことを実感しています。
　２点目として、２事業成果の婚活イベントについて、行政が関わってくださることでロマンス詐欺などに遇わない安心感があります。ＢＢＱ婚活、カフェ婚活等、気軽に参加できる婚活イベントがあることで、県外流出を引き留め、浜松市が活性化していくといいと思いました。

（こども若者政策課・園田課長）
　若年層アンケートの詳しい実績について、紹介させていただきます。「これからも浜松市に住みたい」と思う人の出身地別の割合では、天竜区が一番高く９２％です。次いで中央区、浜名区の順になっています。職業別で見ると、高校生がやや少なく、大学生・専門学生が多い傾向です。
　また、理由について、一番多いのは「住み慣れているから」で、次に多いのは「浜松に愛着があるから」、「家族の近くで暮らしたいから」、「親しい友人がいるから」という順番になっています。
　婚活事業については、令和６年度から開始しており、令和７年度の事業実施の感想としては、募集をしても女性が集まりにくい状況でした。このため、今年度は女性が魅力を感じるイベントを考えながら事業を行っています。昨年度の事業の中では、ヨガ体験や餃子作り婚活が女性に人気のイベントでした。婚活を始めるきっかけになっていただきたいとも思っており、今後も女性の方が気軽に参加していただけるイベントの開催を検討していきます。

（泉谷会長）
　数日前の報道にて、こども家庭庁が実施した１５～３９歳を対象とした調査で３５％が「結婚するつもりはない」と回答したということであり、数値に驚いています。ただ、浜松市は就活で戻ってきてくれる学生がいたり、市内の大学に在学する学生で市内近辺で就職するという人が多い印象です。やはり住み慣れた街で就職したいという若者は多く、そうした人たちをつなぎ留められるといいと思います。

（小野委員）
「これからも浜松に住みたい」と思っている方は、基本的には浜松出身者が多いのでしょうか。市外・県外から進学等で浜松に来てそのまま住むようになった方の率直な意見も参考になってくると思います。

（こども若者政策課・園田課長）
若年層アンケートは、浜松市内在住の３，０００人を対象に無作為抽出して行ったものとなります。出身地を見ると、回答者１，０２２人のうち市外出身の方が３．９％含まれています。

（小野委員）
県外の方も多く回答しているということでしょうか。

（こども若者政策課・園田課長）
多くはないと思います。

（小野委員）
大学まで浜松にいる方はそのまま地元にと考えるかと思います。遠方から来て浜松を良いと思ってくれる人がいるのが理想だと思います。こうした方をつなぎ留める政策等があるといいと思います。

（泉谷会長）
広報はままつには移住してきた方を紹介するページがあります。

（小野委員）
公共機関等で目にする機会もあるかもしれません。お店や商業施設に配布物を置いて、遠方から来た方にお知らせすることもいいと思います。

（泉谷会長）
様々な周知の仕方があるかと思います。若者委員の２人は婚活について本日初めて知ったとおっしゃっていましたが、私は授業で学生に紹介しています。婚活事業は浜松だけでなく、他の自治体でも実施しているので、どうやって知ってもらうかは大切だと思います。

（岡本委員）
これからも浜松に住みたい人の割合について、天竜区が高いのは嬉しく思います。
現在は新幹線もあり、仕事のやり方も様々であるため、どこに住むかが一番大切だと思います。

（こども若者政策課・園田課長）
アンケートでは、「現在市外に住んでいる方や、今後進学などで市外へ出られる予定の方は、将来、浜松に戻って来たいと思うか」と聞いています。将来的に浜松へ戻って来たいという方も含まれています。

（梅沢委員）
婚活イベントについて、参加しようと思ったが初婚でないため参加できなかったということを聞いたのですが、初婚でないと参加できないのでしょうか。

（こども若者政策課・園田課長）
浜松市で実施している婚活イベントは、初婚再婚を要件としていません。婚活イベントを検討する中で再婚の方を含めたイベントのアイデアなども挙がっていますので、今後検討していきたいと思います。

（泉谷会長）
　２４ページのNo.１６親子関係形成事業について、実績が伸び悩んでいるという報告がありましたが、どういう方に利用を促されているのか教えていただきたいです。国からは、こども家庭センターにおいて、措置的にこの事業を利用してもよいと提示されていたと思います。

（子育て支援課家庭支援担当・鈴木担当課長）
　事業の目的や対象者については、こどもとの関りや子育てに不安を抱えている親御さん、乳幼児期のこどもさんを抱える保護者を対象にしています。こども家庭センターの保健師や家庭児童相談室の職員が支援の中で必要な方に講座を紹介し、講座を通じて親子関係が良好になっていくような支援の１つとして利用してもらえるよう勧めています。

（泉谷会長）
　新規事業なので知れ渡っておらず、保育園や認定こども園の０歳児・１歳児のクラスがある園の先生などに知っていただいて、気になる保護者に紹介してもらうという方法もあるのでしょうか。

（子育て支援課家庭支援担当・鈴木担当課長）
　日頃から、こども家庭センターには、保育園や幼稚園の先生方から行政とつながった方がという親御さんやご家庭の連絡をいただいているので、今後も積極的に講座や事業も勧めていけるように連携できればと思います。

（泉谷会長）
　今回の資料では、こども・子育て支援に関するアンケート調査において、前回よりも経済的につらいと感じる方の割合が増えています。物価高騰などが影響しており、生活の中で切実になってきている印象です。

≪報告≫
（１）令和７年度　浜松市児童相談所の相談統計について（児童相談所）

【説明】児童相談所（池田所長）

（２）令和７年度　浜松市家庭児童相談室の相談統計について（子育て支援課）

【説明】子育て支援課（鈴木家庭支援担当課長）

～質疑・応答～
（泉谷会長）
　実父による虐待の割合が高くなったことから、親子関係形成は父親もしなければならないと思いました。父親たちが参加してくれるようになるととてもいいと思います。

（神田委員）
　今のこどもと父親は、昔のような怒って怒られてというよりは仲の良いイメージがあると思っていましたが、資料の内容から実態はそうでもないと感じました。

（池田所長）
　相談受付の中で、夫婦喧嘩による心理的虐待のケースが多いです。過去には男女関係の問題から発生するものが多かったですが、最近は育児や養育の在り方に対する夫婦喧嘩からの相談が増えています。

（梅沢委員）
　児童相談所の報告資料の図２について、件数はコロナ期に増えているように感じます。家庭の中で親子と一緒に過ごす時間が多くなり、増えてしまったと聞いたことがあります。一方で、女性相談について、報告（２）５ページの図４では、コロナ期に減っており、家庭の中に人がいることで相談できなかったと推察しています。実際に相談を受ける中でどのように感じているでしょうか。

（子育て支援課家庭支援担当・鈴木担当課長）
　委員のおっしゃったような状況があったのではないかと推察されます。最近法律が変わり、困難女性の支援について国でも変化をしていて、ポスター等による啓発もされています。相談しやすい、アプローチしやすい体制ができていると考えています。

（３）５歳児健康診査事業について（健康増進課）

【説明】健康増進課（生田母子保健担当課長）

～質疑・応答～
なし

（４）静岡県社会的養育推進計画の進捗状況について（子育て支援課・児童相談所）

【説明】子育て支援課（鈴木家庭支援担当課長）

～質疑・応答～
なし

３　その他
（泉谷会長）
　ひとり親家庭の孤立防止について、民生委員さんにとのお話もありましたが、大石会長何かご意見はありますでしょうか。

（大石委員）
　民生委員に期待されていることを教えていただきたいです。また民生委員に情報をいただけるのか、今後相談していただけるのかなど教えていただきたいです。

（子育て支援課・小山課長）
　地域における民生委員や主任児童委員の活動の中で自治会が把握できている部分について、声掛けなどで関係性を作っていただければと思います。また、ひとり親世帯を対象とした貸付もあり、貸し付けをする場合には民生委員と面談をする手続きもあり、そうした方を把握した際には気に掛けていただけるとありがたいです。

（子育て支援課家庭支援担当・鈴木担当課長）
　児童相談所や家庭児童相談室の統計でも報告させていただきましたが、虐待を受けているこども等を対象とした養護児童支援は、様々な関係機関と連携して対応しています。地域の中での支援という点では、日頃から民生委員や主任児童委員の方々がお子さんを見守ったり、必要に応じて行政につないだり、日頃から対応していただいていると思います。今後も支援が必要なこどもへの対応や地域の見守りを含む継続的な支援が必要な家庭について、個別に地区の会長さん等にご相談させていただき、連携できればありがたいと思います。

（大石委員）
　今後また各地区に説明に来ていただけるということでよろしいでしょうか。

（子育て支援課家庭支援担当・鈴木担当課長）
　先程お伝えした内容については、今後民生委員の会長・副会長の皆様と相談し、各地区の会合に出席して説明させていただきたいと思います。

４　閉会